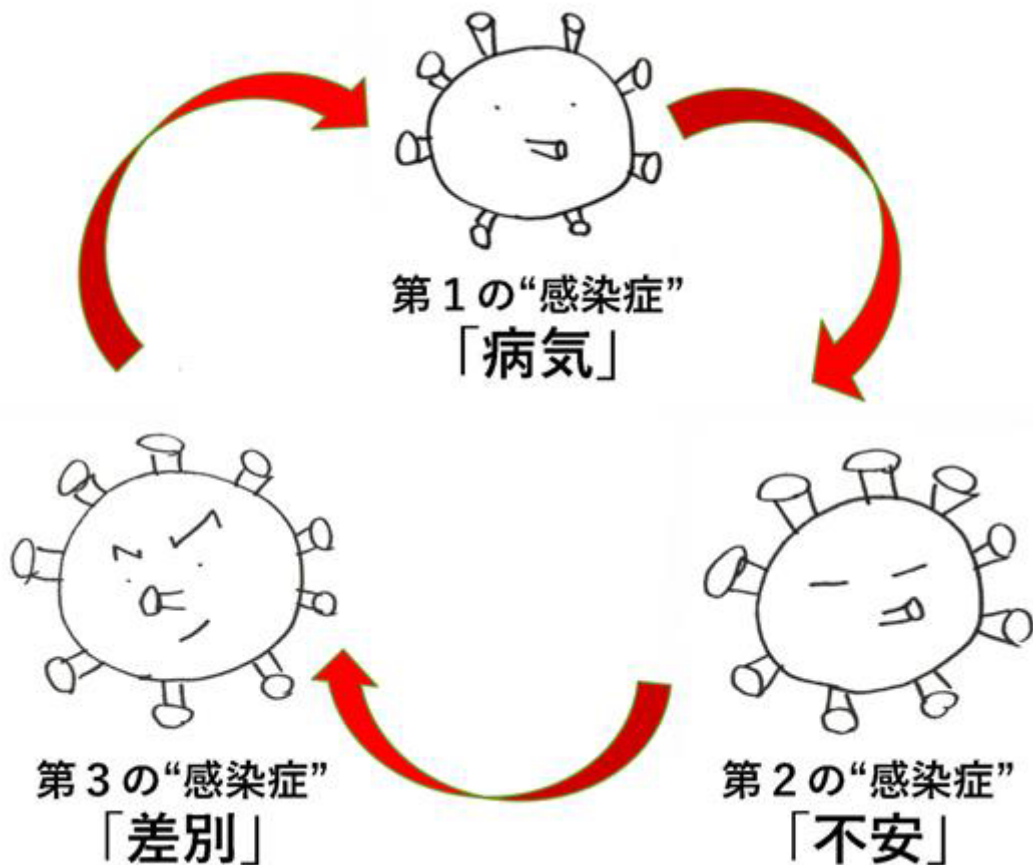


散歩道



第13号

令和2(2020)年11月26日発行

加西市人権啓発だより
加西市ふるさと創造部人権推進課
加西市北条町横尾1000番地
☎ 0790-42-8727



コロナ禍の人権



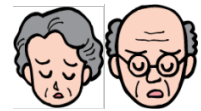
新型コロナウイルスの感染がなかなか収まりません。緊急事態宣言以降、日常生活も大きく様変わりをしてしまいました。コロナウイルスに対する不安は今もなかなか解消できていません。感染に対する不安や経済活動の停滞による生きていくための不安などストレスの影響は、様々な場面で表れてきています。その一つが、コロナ感染者やその関係者、医療従事者に対する誹謗や中傷、「自粛警察」などの行き過ぎた行動です。いつどこで感染するかもしれないという不安はみんなが持っていると思いますが、だれでも感染の恐れがある病気だからこそ感染した人をいたわる広い心をもってほしいと願います。

感染予防のための努力や「新しい生活様式」を取り入れながら生活することと、一人ひとりが自分の大切な人々の命を守るために冷静に行動することを望みます。人権尊重は人の命を守ることに尽きるのではないのでしょうか。

「恐れるべきはウイルスで、人ではない」

新型コロナウイルスの感染拡大によって、感染者やその家族、最前線でウイルスと闘う医療従事者、物流を支える運送業者等に対する差別やいじめが社会問題化している。

いじめが生まれる背景として、新型コロナウイルスに対する正しい知識を持たないことがあります。そのことで、過度に不安や恐れを抱いてしまい、過剰な行動に出てしまった次のような差別事例があります。



差別の一例

- ① 新型コロナウイルスと闘っている看護師さんの夫が職場で『奥さんが仕事をやめないのなら、あなたが会社を辞めて』と心無い言葉を浴びせられた。
- ② 自分の子供が通う保育園の他の保護者から『保育園に通わせないで』と言われた。
- ③ 感染者の自宅に石が投げられる。
- ④ 特定の国の人々に対してタクシーが乗車拒否する。

人権侵害を防ぐために

感染者を非難しない

感染は誰にでも起こる可能性があり、感染者は非難される対象ではなく守られるべき存在です。「自分が感染したら・・・」と考えたときに、他人からされたら嫌だと思ふことは、他人にもしないという気持ち大切です。

感染者を出した職場や家族を非難しない

感染者だけでなく、その職場、家族などへの誹謗中傷や差別的な言動は、感染の表面化を遅らせ、感染拡大防止の妨げになります。



風評被害を防ごう

感染していないにもかかわらず感染者だという噂を流され、本人のみならず、家族や勤務先が差別被害にあうという事例が見受けられます。

新たな風評被害を生まないために、誤った情報や不確かな情報をむやみに拡散しないようにしましょう。



主な人権啓発事業



◆人権文化をすすめる市民のつどい 8月23日(日) 加西市民会館

加西市内においても新型コロナウイルス感染クラスターが発生し、感染防止のために大規模集会やイベント等を自粛していました。人権文化をすすめる市民のつどいの実施についても様々な議論がありましたが、コロナウイルス感染による人権侵害の発生も予想される事態となり、こういう時だからこそ、縮小、短縮してでも開催しなければという意義のもと、人権意識の向上のため実施しました。

当日は、新型コロナウイルス感染防止のために、あらゆる面で対策を講じ、開催いたしました。

- ・参加者数の削減・・・350人以下先着順（市民会館定員の半分で座席の間隔に配慮）
- ・マスク着用と手指消毒の徹底（受付は、マスクとフェイスシールド、手袋を着用）
- ・連絡票の記入・・・万が一クラスターが発生した場合の連絡体制の構築

◇人権講演会

- ・演題 「虐殺と外国人の壁を乗り越えて」
- ・講師 久郷 ^{くごう} ポンナレット 氏（平和の語り部）

久郷ポンナレット氏 プロフィール

1964年カンボジア・プノンペンに生まれる。1980年に留学中の姉を頼って来日し、16歳で神奈川県の小学校に入学。現在は、戦争体験の当事者として各地で講演活動を行っている。



講演会では、カンボジアのポル・ポト政権下の虐殺を生き延びた自身の壮絶な体験を交えながら、命をつなぐ大切さについてお話しいただきました。ポル・ポト政権による暴政が開始されたことで、両親・きょうだい4人を失い、自らも過酷な強制労働にも従事させられました。来日後も、学校や仕事探しに苦労されましたが、現在は、念願の幸せな家庭を築くことができ、「衣食住があり自由と権利があって幸せ」と語られました。

◆夏休み太鼓づくり教室 8月2日実施 於：善防公民館

<太鼓づくり&人権講話>

十八代目太鼓屋六右衛門 ^{たいこやろくえもん} (杉本 ^{すぎもと} 大士 ^{たいし}) 講師の指導の下、10組の小学生と保護者が、牛の命、木の命、職人の命を交えて命の大切さについて考えながら太鼓づくりに取り組みました。保護者にと



もに力を合わせて、完成させました。

また、講師の先生からは、参加した小学生に、周囲への感謝を忘れないように、思った時には、すぐ気持ちを言葉に表現をすることが大切だと教えて頂きました。皮革産業に従事していることから、子どものころには、いわれのない差別にも遭いましたが、親に感謝の気持ちを持つことで家業に誇りを持ち、乗り切ることができたと話されました。



◆まちかどフォーラム (3年に1回) 7月～10月 (北条・富合・西在田)

自治会ごとに人権について学習しました。今年の推奨テーマは、「外国人の人権」、推奨 DVD は「サラマツ」です。自治会ごとにテーマと DVD を選定し、順次実施していただきました。

本年度の推奨作品「サラマツ」は、訪問介護事業所の主任を務める主人公の日本人と日本で介護に関する研修を受けた外国人の介護士との交流を描いた啓発 DVD です。外国人に対する偏見を自覚し、日本でやりがいをもって働いている外国人の姿を通して自分自身の考え方を改めていく主人公の成長を描いています。他にも、「高齢者の人権」、「子ども若者の人権」、「無縁社会と人権」などのテーマで開催していただきました。

◆地区人権学習会 (3年間で2回) 9月・10月 開催

加西市の9地区ごとの人権学習会です。2パターンの学習会になっています。

地区人権学習 A は講話中心の学習会です。地区人権学習会 B は音楽 (ギターと歌) を交えた講話による学習会です。

- ・地区人権学習 A 富田・九会・多加野地区で開催しました。

演題：「みんなの命 輝くために」－誰も孤立させない人権のまちづくり－

講師：三木市人権・同和教育協議会 人権教育・啓発専門員 ^{ひがしだ としひろ} 東田 寿啓 氏

- ・地区人権学習 B 賀茂・下里・在田で開催しました。

演題：「歌い継ぐ 語り継ぐ」

講師：元兵庫県人権啓発協会研修講師 ^{たかた みつひろ} 高田 光裕 氏



※人権啓発の各事業参加者アンケート結果等は、加西市ホームページに掲載しています。

(トップページ→「暮らす」→「安全安心のまちづくり」の「人権教育・啓発活動」→「啓発活動」へ)

※表題「散歩道」という名称は、平成 13 (2001) 年度まで人権啓発冊子の表題として使用されていました。

※表紙の図は日本赤十字作成の「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう」より転載しました。